

1. 調査報告概要表

作成日平成 20年 11月17日

【評価実施概要】

事業所番号	770403566
法人名	MCP 有限会社
事業所名	グループホーム つどい「柳内家」
所在地	いわき市鹿島町御代字柿境25-1 (電話) 0246-76-0730

評価機関名	NPO 福祉ネットワーク
所在地	いわき市錦町竹の花20
訪問調査日	H20 11月12日

【情報提供票より】(20年 11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 12月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	13人 常勤 人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての, 1階 ~ 2階部分
------	--------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) ■無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) ■無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
1日1500円			

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	6名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.7歳	最低	76歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	クレハ総合病院 ・かしま病院
---------	----------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ISO9001認証取得による確実なる基盤の上にピラミット化しない相互関係は、ホームが築き上げてきた理念を常に重視することで成り立っている。一人ひとりの思いを大切に心に寄り添い合う支援は名の如く第2の我が家であり、つどい合う場である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) サービスの質の向上を目指し職員全員による見直し、取り組みをしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員で評価することで、より理解を深めている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進協議会により各専門分野のアドバイスを活かし実践することで、孤立しないホームへと確立しつつある
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の意見や要望を聞き出しやすい雰囲気作りに心掛け、意向を受け入れることで信頼関係を築いている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 子供避難所受け入れや自治会関連行事を積極的に参加することで、地域の一員として働きかけしている

2. 調査報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者や職委員の声を傾聴した独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	独自の理念を常日頃より職員間で共有できるよう朝礼などで確認し、一日の目標ノートを作成することでより統一されたケアを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日頃から地域交流を積極的に図ることで、近隣の学校行事や地区行事の定着した参加が保たれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で取り組むことでより良いサービスの質の向上に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して各専門分野からの意見内容の議事録をホーム内に掲示することで職員間の共有をはかり、検討内容を利用者家族に郵送することでサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
/////////					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の日常生活の様子や行事写真貼付入りホーム便りを月に1度郵送することで、家族への安心感の配慮に努めている。また、来訪時にはその都度意見や要望を聞き出せる体制を整えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱設置やアンケート調査で意見を聞き出しやすい雰囲気作りに努め来訪時に出された意見及び要望を職員間で検討し反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットごとに顔馴染みの職員を配置することで、異動、離職のダメージを最小限に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ISO人材育成規定に基づいた年度計画書を作成し、スタッフレベルに合った研修受講を推進することでスキルアップに努めていた。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加盟し、ホーム間の交流を持つことでサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活場面の中で相互関係や協調関係が築かれていた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	尊重した声掛けや黒子的支援を心がけ、一日の目標にも掲げた個々のその日その日の意向を重視した支援がされていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を取り入れ随時ケアプラン検討会議を開き作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度の見直し・評価と状況把握のためのフローカンファレンスを通じて、より良い介護計画が実施できるよう随時、検討・見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を継続受診できるよう支援し、近隣病院との連携体制による訪問看護支援も確立されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に対する指針を契約時書面にて説明し同意を得ており、医療機関との協力体制を整えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入社時にプライバシー保護同意書を取り職員は周知徹底を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や気分に合わせて個別的支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に自由食を取り入れたり、野外食を開催するなど食事を通し分担作業参加への楽しみごとを作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の希望時間帯や回数に合わせて支援している。拒否時にもタイミングを伺い負担のない程度に支援するなど随所に入浴を楽しめるような配慮が工夫されていた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸活動や家事活動を通し知恵や経験が発揮できる場を設けていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣商店や食堂へ出かけるなど地域交流の機会を作っている。また、四季折々に触れられるよう今後は小旅行なども考慮中である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	一人ひとりの行動パターンを熟知することで日中は鍵をかけない支援をしている。また、外出された場合はさりげなく行動を見守り安全を尽くしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署指導のもと避難訓練を実施し、運営推進会議などで地域の協力も呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士により管理され1日メニューの中に季節メニューを取り入れることで食の楽しみに繋げている。食事はバイタルサイン表に記録し栄養摂取量を把握している。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員手作りの季節感漂う装飾品は目障りなく共同スペースに馴染んでいた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた日用品や嗜好品を持ち込めるよう家族に提案することで心地よい空間が実現されていた。		

